

(別紙様式2-7)

インターフェロンフリー治療（再治療）に対する意見書

返信先医療機関及び担当医

フリガナ 患者氏名		性別	生年月日（年齢）	
		男・女	年 月 日生	（満 歳）
住所	郵便番号			
	電話番号（ ）			

群馬県肝炎治療費等助成事業実施要綱 別紙1 認定基準（抜粋）

(2) インターフェロンフリー治療について

HCV-RNA陽性のC型慢性肝疾患（C型慢性肝炎若しくはChild-Pugh分類AのC型代償性肝硬変又はChild-Pugh分類B若しくはCのC型非代償性肝硬変）で、インターフェロンを含まない抗ウイルス治療を行う予定、又は実施中の者のうち、肝がんの合併のないもの。

※1 上記については、C型慢性肝炎又はChild-Pugh分類AのC型代償性肝硬変に対しては原則1回のみ助成とし、Child-Pugh分類B又はCのC型非代償性肝硬変に対しては1回のみ助成とする。ただし、インターフェロンフリー治療歴のある者については、肝疾患診療連携拠点病院に常勤する日本肝臓学会肝臓専門医によって他のインターフェロンフリー治療薬を用いた再治療を行うことが適切であると判断される場合に限り、改めて助成の対象とすることができる。なお、インターフェロン単剤治療並びにインターフェロン及びリバビリン併用治療及びベグインターフェロン、リバビリン、プロテアーゼ阻害薬による3剤併用法に係る治療歴の有無を問わない。

※2 上記については、初回治療の場合、原則として群馬県が適当と認める医師が「肝炎治療受給者証交付申請に係る診断書」を作成すること。ただし、他の都道府県の医療機関に籍を置く医師については、この限りではないが、日本肝臓学会肝臓専門医に限る。

※3 上記については、再治療の場合、肝疾患診療連携拠点病院に常勤する日本肝臓学会肝臓専門医の判断を踏まえた上で、原則として群馬県が適当と認める医師が「肝炎治療受給者証交付申請に係る診断書」を作成すること。ただし、他の都道府県の医療機関に籍を置く医師については、この限りではないが、日本肝臓学会肝臓専門医に限る。

- 本意見書を記載する医師は、以下の項目についても満たしている必要があります。
 - ✓ 上記の肝炎治療特別促進事業の実務上の取扱いにおける認定基準を確認した。
 - ✓ 日本肝臓学会のC型肝炎治療ガイドラインを精読した。
 - ✓ ウイルス性肝疾患の治療に十分な知識・経験を持っている。
- 本意見書を記載する医師が適切であると判断する場合に限り、以下にチェックの上返信して下さい。

この患者に対するインターフェロンフリー治療による再治療は、適切であると判断します。
(推奨する治療：)

記載年月日 令和 年 月 日

肝疾患診療連携拠点病院名及び所在地

本意見を述べた日本肝臓学会肝臓専門医の氏名 _____
(注)

- 本意見書の有効期間は、記載日から起算して3ヶ月以内です。
- 本意見書は肝疾患診療連携拠点病院に常勤する日本肝臓学会肝臓専門医が記載する必要があります。